

9月5日 第298回 きむらゆういち作品を楽しむ

話題提供 浅井彰子さん（フリーアナウンサー）（2名）

今年の「平和のつどい」の講演は絵本・童話作家のきむらゆういちさんです。その講演の前に行われる市民による群読『あらしのよるに』に向けて、現在、浅井さんの熱心な指導で練習が佳境に入っています。今日はその、きむらゆういちさんの作品を皆で読み、きむらゆういちさんが伝えようとしていることが何かを深く感じる機会となりました。

きむらゆういちさんは、著作が500以上あり、幼児絵本『いないいないばあ』は大ヒットしました。浅井さんは、最初にパクパク絵本『おいしいな』を紹介。その後、『うんどうかいがなんだ』『おもいのたけ』『ゆらゆらばしのうえで』『あらしのよるに』『オオカミのあっかんべー』『憲法を変えて戦争に行こうという世の中にしないための18人の発言』を参加者二人ずつ、又は全員で朗読しました。

きむらゆういちさんの作品に共通して流れるのは、おもいのたけをぶつけ合う対話の大切さ、その中からこそ共感が生まれる—— 浅井さんはひとつひとつ読むごとに、その共通するテーマについて丁寧に説明されました。参加者は作品の朗読を通じてきむらゆういちさんのメッセージをしっかりと受け止めました。

そのあと、きむらゆういちさんによる「大人のための絵本」も参加者から紹介されました。女性から男性へ、男性から女性にむけた愛の言葉がつづられた本です。

続けて参加者一人ひとりが感想を述べました。

「このような全員参加の企画がすばらしい！」「お互い、分かり合うことが大切だとわかっていても、うまくいかない。残念！共感することが人間の基本だと改めて思った」

「平和—どうしたら分かり合えるのか参考になった。このことを話しながら「つどい」のチケットを広めたい」「本のすばらしさを改めて感じた」「11月にグループホームを開所する。浅井さんには是非来てほしい」「今まで読んだきむらゆういち作品を全部読み返してみたくなった」「親とうまく対話ができない子とのやり取りに悩んでいる。今日の話は身に沁みた」「いま、改憲、護憲両方が極端にいる気がする。冷静になってよく勉強する必要がある」「個人個人ではわかるけど、国同士ではうまくいかない。私たちは仲間を作ってしまう傾向にある。」「対話の大切さを改めて感じた。『いないいないばあ』は、3人の息子に何度も読みきかせた」「もっと意見の違うひとたちに心を開き対話することが大切だと自分自身反省する」「きむらゆういちを知らなかった。味わいがある」「私たちなりに行動することが大切。日曜学校でも絵本を聞かせている。今日またいい本を紹介してもらった」「今、北朝鮮のミサイル発射などに対して、日本政府は圧力のことしか言わない。サイレン、警報で不安をあおっている。対話ってむづかしい。われわれは北朝鮮のことをよく知らない」「今一番大事なのは対話。9条のことを知らない人との対話こそが大事。いま、分岐点」「対話のための言葉を磨くことも大切だ」など。

最後に浅井さんは、『子どもたちのだれかが』をもう一度家で読み直してほしい。「もう

やめようよ」と発言するのが日本だといいいですね」と結ばれました。

子どもたちのだれかが 木村裕一

(『憲法を変えて戦争に行こうという世の中にしないための18人の発言』所収)

世界の国々を、子どもたちにたとえてみた。  
力が強くて子分のいる子もいれば、  
いつも腹をすかしている子もいる。  
身体が大きすぎて、それで精一杯の子もいれば、  
身体が小さいが気配りのうまい子もいる。  
いろんな子どもたちが ひとつの広場の中で遊んでいるのに、  
どうやら 本当に相手の気持ちになって思いやることは  
とてもむずかしいらしい。

この子たちの過去を振り返っても、  
「オレの方が強いぜ」  
「あたしだって欲しいのよ」  
「絶対しかえししてやる」  
「おまえなんか黙っている」  
「悪いのはそっちだ」……  
自分の立場ばかり優先させ  
ケンカばかりの歴史が続いてきた。  
そんな子どもたちに 最良のルールを与えてくれる  
賢い大人は存在しない。

今、この子どもたちのだれかが  
「もうやめようよ」と 発言しなければ、  
この先どういう未来が 待っているのだろうか。

四百万年の歴史を経た 人類の知恵も  
ふと気がつけば  
愚かな子どもたちのケンカに、実によく似ている。